

各 位

唐津農林事務所東松浦農業振興センター長

稲作情報第6号（普通期水稻）

1. 気象概要（アメダス：唐津地点）

月	半旬	平均気温 (℃)		最高気温 (℃)		最低気温 (℃)		降水量 (mm)		日照時間 (h)	
		平年	R7	平年	R7	平年	R7	平年	R7	平年	R7
7	1	24.7	28.4	28.0	34.3	22.2	24.4	87.3	0.0	15.2	59.3
	2	25.3	27.8	28.7	33.2	22.8	24.6	92.9	0.0	19.9	45.1
	3	26.0	26.4	29.6	30.8	23.2	23.8	74.1	50.5	26.4	28.9
	4	26.6	27.7	30.5	33.0	23.6	24.7	45.1	55.5	31.7	32.3
	5	27.3	28.7	31.4	33.9	24.3	24.4	26.5	0.0	35.6	56.5
	6	28.0	28.9	32.2	35.1	24.9	23.8	24.5	0.0	47.6	71.3
8	1	28.3	28.7	32.5	33.9	25.0	25.2	20.9	4.5	41.3	50.7

7月6半旬の最高気温は平年より2.9度高くなったが平均気温は平年並みで最低気温は平年より低くなった。8月に入っても最高気温は高いが平均気温、最低気温は平年並みとなっている。8月4日から降雨となり向こう1週間雨が続く見込みである。

2. 生育状況（調査日：8月5日）

項目 品種 設置場所	年次	草丈 cm	茎数 本／m ²	主 稈 出葉数 L	葉色 SPAD	概 要
夢しずく 唐津市相知町 伊岐佐 6/12 移植 標高 70m	本年値	89.9	404	12.4	30.8	・草丈は高い ・茎数は多い ・出葉は平年並み ・葉色は薄い
	平年値	84.2	317	12.3	38.3	
	平年比	107	127	0.1	-7.5	
さがびより 唐津市相知町 相知 6/20 移植	本年値	70.8	499	13.0	32.5	・草丈は平年並み ・茎数はやや多い ・出葉は平年並み ・葉色は薄い
	平年値	70.4	474	13.0	36.8	
	平年比	101	105	0.0	-4.3	

(1) 山間早植え

出穂は平年より早く穂揃期から乳熟期となっている。

作況圖の「コシヒカリ」は平年より3日早い7月29日に出穂期を迎えた。

(2) 普通期水稻

作況圖の「夢しずく」、「さがびより」と梅雨明け以降、茎数が多い状態で推移したが、8月5日の調査では「夢しずく」の茎数は平年比127、「さがびより」は平年比105となった。葉齢は平年並みである。

「夢しずく」は出穂直前となっており出穂平年日は8月12日であるが今年は早まる見込みである。また、穂数も多くなる見込みである。

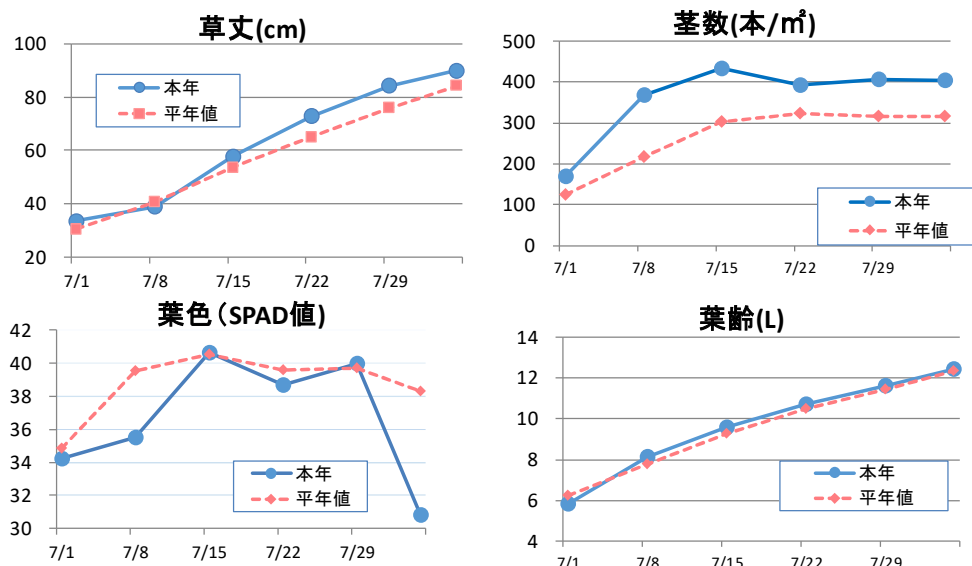
「さがびより」は最高分げつ期以降、茎数は減少を続けており平年値に近づいている。

8月5日の調査で幼穂1mmが確認され幼穂形成期始期となっている。

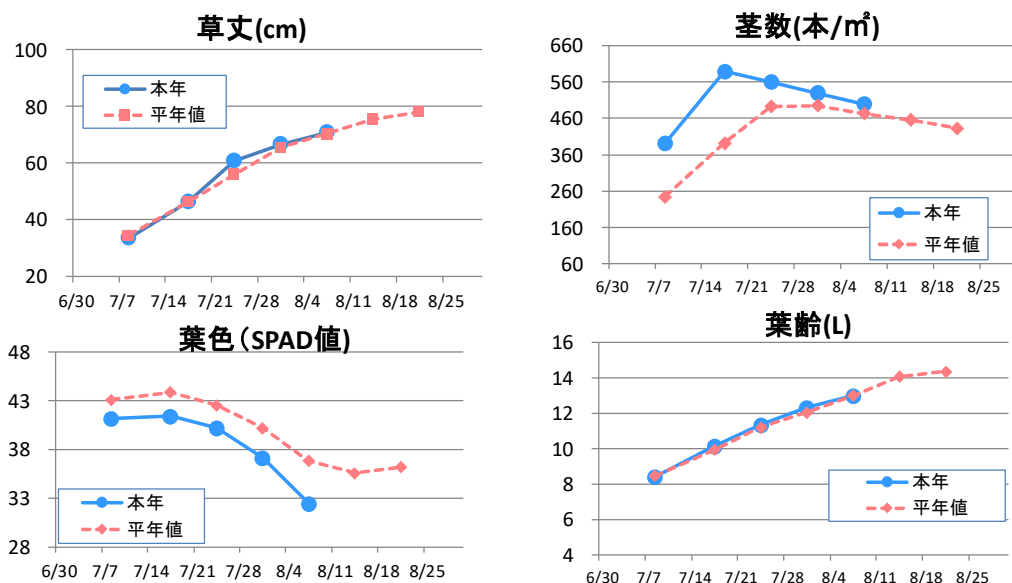
8月5日の「夢しずく」、「さがびより」作況圖の調査ではウンカ類は確認できなかった。

「さがびより」作況圖ではいもち病及び紋枯病の病斑が認められた。

◎「夢しずく」作況圖の生育グラフ(相知町伊岐佐)



◎「さがびより」作況圖の生育グラフ(相知町相知)



3. 今後の管理

(1) 山間早植え

①栽培管理

- ・コシヒカリは穂揃期から乳熟期となっており子実の充実のために最も水を必要とする時期である。圃場の水を切らさないように管理を徹底する。
- ・8月10日頃大雨が予測されているので、大雨の場合は入水せず水尻を開けて落水管理とする。

②病虫害管理

- ・今年はトビイロウンカの飛来は少ないが、今後の発生状況に注意し、ほ場の発生状況を確認して適期防除に努める。防除を行う場合には湛水をするとともに、株元まで薬剤が十分にかかるように散布する。
- ・「いもち病」の病斑が見られる場合は、「穂いもち」とならないよう地域の栽培暦に従って速やかに防除を行う。
- ・特別栽培表示制度を申請した産地では、農薬成分カウント数に注意する。

(2) 普通期水稻

①栽培管理

- ・「夢しずく」は間もなく出穂期を迎えイネが最も水を求める時期であるため、浅水管理とする。
- ・「さがびより」について、中干し後は間断灌水により根の活性を高めて稲体の維持に努める。
- ・8月10日頃大雨が予測されているので、大雨の場合は入水せず水尻を開けて落水管理とする。

②穂肥診断

- ・8月中旬以降は天候が回復して高温となる見込みであるので、登熟期間の栄養不足を防ぐためにも下記の診断基準に基づき穂肥を施用する。

1)「ヒノヒカリ」の穂肥診断基準

必要以上に粃数を付け過ぎない診断が必要

幼穂形成 始期草丈	葉色		施用時期		施用量
	群落	SPAD	出穂前	幼穂長	窒素成分 kg/10a
80cm 以下	3.0 以下	34 以下	25-23	1-2mm	3.0
	3.0-3.3	35-38	22-20	3-5mm	3.0
	3.5-3.8	39-40	20-16	5-15mm	2.0
	3.8 以上	40 以上	16-12	15-30mm	1.0 以下
80cm 以上	3.0-3.3	35-38	22-20	3-5mm	2.0
	3.5-3.8	39-40	20-16	5-15mm	1.5
	3.8 以上	40 以上	16-12	15-30mm	1.0 以下

草丈は幼穂形成始期(1mm)を基点に前後1日当たり1cm増減する。

○ヒノヒカリ出穂前日数と幼穂伸長

出穂前日数(日)	主稈の幼穂長(mm)
-23～ -20	1～3
-20～ -18	3～ 5
-18～ -12	5～ 80
-12～ -10	80～100
-7～0	100～200

← 幼穂形成始期

← 穂肥施用時期の目安

2)「さがびより」の穂肥診断基準

早過ぎる穂肥は籾数の過剰につながるので注意する。

幼穂形成 始期草丈	葉色 群落	SPAD	施用時期 出穂前	幼穂長	施用量 窒素成分 kg/10a
	3.0 以下	33 以下	20-18	5mm	3.0
75cm 以下	3.0 - 3.3	33-37	18-17	10mm	3.0
	3.5 - 3.8	37-38	17-16	15mm	2.0
	3.8 以上	39 以上	施用しない		
75 ~ 80cm	3.0 - 3.3	36 以下	18-16	10~15mm	1.5
	3.5 以上	37 以上	施用しない		
80cm 以上	施用しない				

草丈は幼穂形成始期(1mm)を基点に前後1日当たり1cm増減する。

○さがびより出穂前日数と幼穂伸長

出穂前日数(日)	主稈の幼穂長(mm)
-22	1
-20～ -18	3～5
-18～ -16	10～15
-16～ -12	5～ 80
-12～ -10	80～100
-10～0	100～200

← 幼穂形成始期

← 穂肥施用時期の目安

③病虫害・雑草管理

- ・いもち病の病斑が見られる場合は、地域の栽培暦に従って速やかに防除を行う。また置き苗はいもち病の発生源となるため早急に撤去する。
- ・今年はトビイロウンカの飛来は少ないが、今後の発生状況に注意し、ほ場の発生状況を確認して適期防除に努める。防除を行う場合には湛水をするとともに、株元まで薬剤が十分にかかるように散布する。
- ・特裁申請している圃場では農薬成分カウント数に注意する。
- ・出穂直前に畦畔除草を行うとカメムシの圃場内への移動助長するため、畦畔除草は出穂 10 日前までに行うこと。
- ・特に「夢しずく」について出穂が早まると予測されるのでカメムシの防除適期を逃さないよう注意する。

※イネカメムシについて上場のコシヒカリ圃場で1頭確認され、農業技術防除センターが病虫害対策資料が発出されている。(別添)振興センターの調査でも唐津市大良のコシヒカリ圃場で1頭確認した。(7月16日)

発生頭数は少ないが今後の発生状況に注意して斑点米カメムシ防除を徹底する。

※農業技術防除センターから病虫害発生予察情報(8月の予報)では斑点米カメムシと紋枯病の発生がやや多いとされている。これら病虫害の発生状況に注意して適切な防除を行う。

イネウンカ類・コブノメイガのトラップ捕獲状況

(佐賀県農業技術防除センター情報から)

表1 イネウンカ類・コブノメイガのトラップ捕獲状況(2025年)

月	日	トビイロウンカ				セジロウンカ				コブノメイガ					
		佐賀県		長崎県		佐賀県		長崎県		佐賀県					長崎県
		佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	佐賀市	神埼市	伊万里市	白石町	武雄市	諫早市
		ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップ	ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップ	フェロモン トラップ	粘着トラ ップ(20W蛍 光灯)	フェロモン トラップ	フェロモン トラップ	粘着トラ ップ(20W蛍 光灯)	フェロモン トラップ
6月	1日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0
	2日	0	0	0	0	0	0	0	0		0			0	0
	3日	0	0	0	0	0	0	0	1		0			0	0
	4日	0	0	0	0	0	0	0	0						0
	5日	0	0	0	0	0	0	0	0						0
	6日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0
	7日	0	0	0	0	0	0	0	0						0
	8日	0	0	0	0	0	0	0	0						0
	9日	0	0	0	0	0	0	1	0		0			0	0
	10日	0	0	0	0	0	2	4	0		0			0	1
	11日	0	0	0	0	0	0	0	0	0					0
	12日	0	0	0	0	0	1	1	0						0
	13日	0	0	0	0	0	0	0	0		0			0	0
	14日	0	0	0	0	1	0	1	0						3
	15日	0	0	0	0	0	0	0	0						0
	16日	0	2	0	0	3	9	0	0	0	0	0		1	7
	17日	0	0	0	0	0	4	0	0		0				1
	18日	0	0	0	0	3	4	0	4			0			0
	19日	0	0	0	0	0	2	0	0						6
	20日	0	0	0	0	0	0	0	0		1		0	1	0
	21日	0	0	0	0	1	1	0	0	0		0			0
	22日	0	1	0	0	0	26	0	1			0			0
	23日	0	2	0	0	2	126	2	0		0		0	0	2
	24日	0	0		0	2	139		0						1
	25日	0	0		0	2	12		0						0
	26日	0	0		0	1	8		0	0		2		1	
	27日	0	0			0	7				0		0		
	28日	0	0			0	1								
	29日	0				0									
	30日	0				0									

注1)ウンカ類:佐賀市のネットトラップは、農業試験研究センターで調査(回収日で集計)。嬉野ライトトラップ(予察灯)は農業技術防除センターで調査。

6月29～30日の嬉野ライトトラップは、装置の不具合により欠測。

注2)コブノメイガ:神埼市、白石町、伊万里市、武雄市は防除員が調査。佐賀市のフェロモントラップは農業試験研究センターで調査。

※長崎県のデータは、長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室提供。

トビイロウンカ発生予測（佐賀県農業技術防除センター情報から）

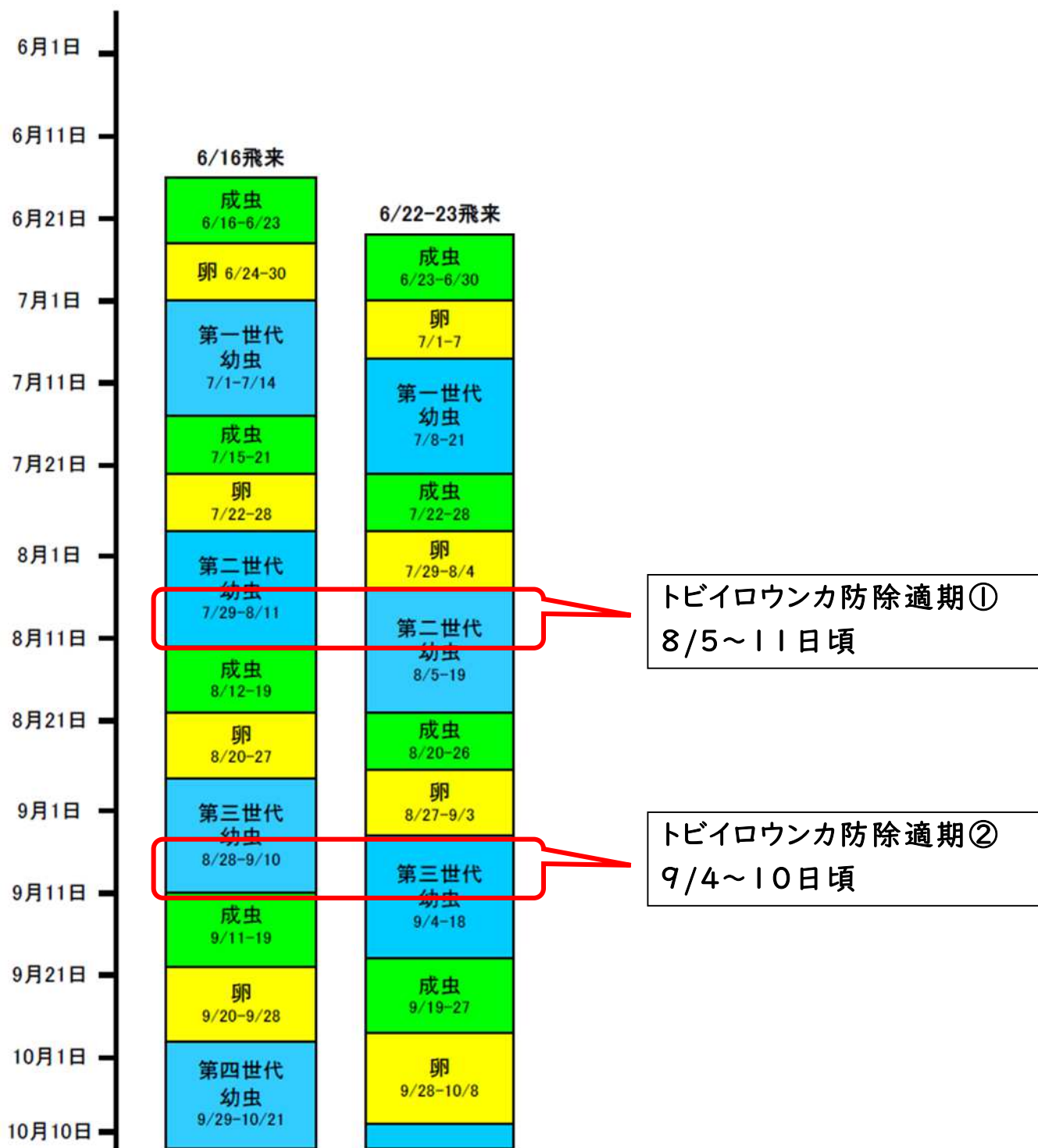


図 トビイロウンカ各世代の発生予測（第2版、2025年7月18日作成）

1. 6月16日頃、6月22日～23日（図では6月23日）の飛来虫を起点とし、トビイロウンカの有効積算温度及び佐賀市川副町のアメダスデータ（7月18日以降は平年値）に基づき作成した。三角法を用い、発育零点 12℃、発育上限温度 28℃、発育停止温度 33℃とした。
2. 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
3. 今後の気象経過等に応じて、本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。

コブノメイガ発生予測（佐賀県農業技術防除センター情報から）

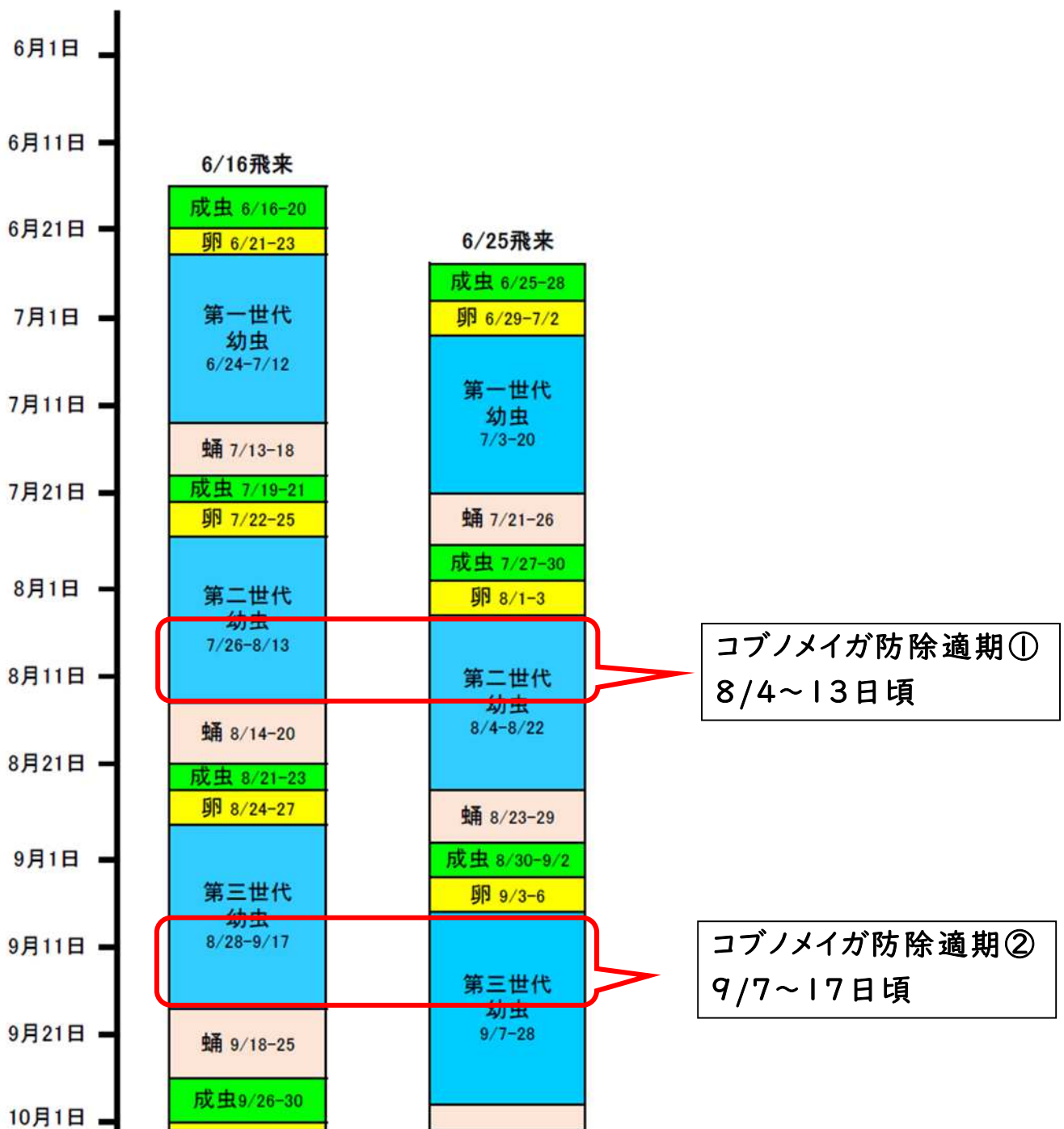


図 コブノメイガ各世代の発生予測（第2版、2025年7月18日作成）

1. 6月16日頃、6月24日～25日頃（図では25日）の飛来虫を起点とし、コブノメイガの有効積算温度及び佐賀市川副町のアメダスデータ（7月18日以降は平年値）に基づき作成した。三角法を用い、発育零点 13℃、発育上限温度 28.5℃、発育停止温度 33℃とした。
2. 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
3. 今後の気象経過等に応じて、本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

イネカメムシの県内における発生状況について

イネカメムシは、近年全国的に被害が拡大している斑点米カメムシ類の一種で、昨年度本県において広く分布していることを確認しています（写真1）。本種は、水稻の出穂始めに籾を吸汁して不稔にし、大きな減収被害を生じさせるなど、他の斑点米カメムシ類とは異なる特徴があり、適期の本田防除が重要です。本年7月上旬の早期水稻の調査において、本種の発生を確認したことから、県内での被害の発生が懸念されます。

ついでには、本種による被害の発生するおそれが比較的高いと考えられる山間、山麓部地域においては、本種の発生に留意するとともに、下記を参考に防除対策を徹底するよう、生産者への指導をお願いします。

記

1. イネカメムシの発生状況

令和7年7月10日に実施した県内3地点の早期水稻18圃場での捕虫網によるすくい取り調査では、イネカメムシ成虫が1圃場で認められた（表1）。また、昨年8月上旬の調査では同3地点全てで本種の発生を認めている。

2. イネカメムシによる被害の特徴

本種は、出穂直後から加害することで不稔籾を生じさせ、被害が甚だしいと大きな減収を引き起こす。また、穂揃期以降は、基部斑点米を生じさせ、等級格下げの原因となる。

3. 防除対策

- 1) 圃場内をよく観察し、本種の早期発見に努める。特に、周辺より出穂が極端に早い、又は遅い圃場では、本種の飛来が集中するため、発生状況を注意深く観察する。
- 2) 出穂前に本種の発生を認めた圃場では、通常の水田カメムシ類の防除適期である穂揃い期～乳熟期の防除だけでなく、発生状況に応じて出穂期の薬剤散布を実施する。
- 3) 出穂後に本種の発生を認めた圃場では、発生状況に応じて通常の水田カメムシ類の防除適期である穂揃い期～乳熟期の防除を行う。

写真1 イネカメムシ成虫【A】及び幼虫【B】、基部斑点米【C】

成虫の体長は13mm前後



表1 斑点米カメムシ類の水田におけるすくい取り調査結果

20回すくい取り虫数（調査日：令和7年7月10日）														
調査 地点	品種	生育 ステージ	イネカメムシ		クモヘリカメムシ		ホソハリカメムシ		シラホシカメムシ類		アカシジ [*] カスミカメ		アカヒゲ [*] ホソミド [*] リ カスミカメ	ミナミアオカメムシ
			成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	成虫
A-1	コシヒカリ	出穂期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A-2	コシヒカリ	出穂期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A-3	コシヒカリ	出穂前	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A-4	コシヒカリ	出穂前	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A-5	コシヒカリ	出穂期	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0
B-1	コシヒカリ	出穂前	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B-2	コシヒカリ	出穂前	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
B-3	コシヒカリ	出穂前	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B-4	コシヒカリ	出穂前	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B-5	コシヒカリ	出穂期	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
B-6	コシヒカリ	出穂期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B-7	コシヒカリ	出穂期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C-1	コシヒカリ	出穂期	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
C-2	コシヒカリ	出穂期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C-3	コシヒカリ	出穂期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C-4	コシヒカリ	出穂期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C-5	コシヒカリ	出穂期	1	0	1	0	0	0	1	0	5	0	0	2
C-6	コシヒカリ	出穂期	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0

水稻の生育ステージ：出穂前～出穂期

病害虫発生予察情報予報第4号（8月の予報）

佐賀県農業技術防除センター

6月1日～8月31日の3か月間は農業危害防止運動期間です。
農薬の安全かつ適正な使用及び保管管理を徹底しましょう。

I. 予報の概要および各作物の特記事項

作物名	病害虫名 ^{注1)}	8月の予想発生量 ^{注2)} 平年比	予報対象の病害虫 (抜粋)
水稲 (早期)	紋枯病	並	斑点米カメムシ類 
	斑点米カメムシ類	やや多	
水稲 (山間早植え)	穂いもち	並	クモハカメシ ホリハカメシ
	紋枯病	やや多	
	トビイロウンカ	並	
	コブノメイガ	やや多	
	斑点米カメムシ類	やや多	
水稲 (普通期)	穂いもち	並	 トビイロウンカ イナカメシ
	紋枯病	やや多	
	白葉枯病	並	
	もみ枯細菌病	並	
	トビイロウンカ	並	
	コブノメイガ	やや多	
	フタオビコヤガ	並	
	斑点米カメムシ類	やや多	
1. 斑点米カメムシ類 水稲の出穂 10 日前までに畦畔を含めて除草を行うとともに、乳熟期（穂揃い期の約 10 日後）を中心に薬剤防除を行う。多発生の場合は穂揃い期とその 7～10 日後に薬剤防除を行う。			
2. イネカメムシ 他の斑点米カメムシ類と異なり、水稲の出穂始めに根を吸汁して不稔を生じさせることから、出穂前に本種の発生を認めた圃場では、通常の斑点米カメムシ類の防除適期である穂揃い期～乳熟期の防除だけでなく、発生状況に応じて出穂期の防除を行う（令和 7 年 7 月 14 日付け病害虫対策資料第 8 号参照）。			
3. 紋枯病 近年、多発傾向にあるため、各圃場における発生状況を確認し、発生を認めた圃場では病斑が上位の葉鞘に進展する時期（液剤、粉剤の場合は出穂 20～10 日前を目安とする）に防除を徹底する。			
水稲全般	1. トビイロウンカ 本種の発生状況は、田植え時期、水稲の品種、地域、これまでの防除の違い等によって異なるので、発生予測図（共通-図 1）を参考にして、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、幼虫ふ化揃い期の防除を実施する。		

令和7年産 稲作期間気象図

アメダス観測値(唐津)

東松浦農業振興センター

